

長崎県橘湾から得られたシマガツオ科魚類
マルバラシマガツオ *Brama orcini*

畑 晴 陵・高 山 真由美・本 村 浩 之

First record of *Brama orcini* (Perciformes: Bramidae) from Tachibana Bay,
Nagasaki Prefecture, southern Japan

Harutaka HATA , Mayumi TAKAYAMA and Hiroyuki MOTOMURA

長崎県生物学会誌 No.78 , 2016 別刷

Reprinted from

Transactions of the Nagasaki Biological Society, No.78 (2016)

Nagasaki, Japan

長崎県橘湾から得られたシマガツオ科魚類 マルバラシマガツオ *Brama orcini*

畑 晴 陵¹⁾・高山 真由美²⁾・本村 浩 之²⁾

First record of *Brama orcini* (Perciformes: Bramidae) from Tachibana Bay,
Nagasaki Prefecture, southern Japan

Harutaka HATA¹⁾, Mayumi TAKAYAMA²⁾ and Hiroyuki MOTOMURA²⁾

はじめに

シマガツオ科魚類 Bramidae は日本近海から6属10種が知られている(波戸岡・甲斐 2013; Hibino et al. 2014)。そのうち、マルバラシマガツオ *Brama orcini* Cuvier, 1831は国内ではこれまで相模湾(波戸岡・甲斐 2013)、三重県南部(Hibino et al. 2014)、鹿児島県薩摩半島西岸、大隅半島内之浦湾、種子島、奄美大島(畑ほか 2015)、小笠原諸島および八重山諸島(望月 1984; 波戸岡・甲斐 2013)から報告されていた。

2014年4月3日、長崎県橘湾牧島南方からマルバラシマガツオが漁獲された。本標本は長崎県における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Moteki et al. (1995) にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて0.1mmまでおこなった。各種の生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された鹿児島県産標本(KAUM-I 60360)のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、固定方法は本村(2009)に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館(KAUM)に保管されており、上記の

生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

結果と考察

Brama orcini Cuvier, 1831

マルバラシマガツオ(図1)

標本 KAUM-I 60360, 体長249.8mm, 長崎県長崎市橘湾牧島南方(32°44'N, 129°58'E), 水深20m, 定置網, 2014年4月3日, 浜田明彦。記載 背鰭条数34; 臀鰭条数29; 胸鰭条数19; 腹鰭条数I, 5; 縦列鱗数51; 第1鰓弓上枝状の鰓耙数4; 第1鰓弓下枝鰓耙数10。

体各部測定値の体長に対する割合(%) : 体高52.8; 体幅11.2; 頭幅11.5; 背鰭前長40.5; 臀鰭前長55.4; 腹鰭前長40.8; 胸鰭前長28.9; 背鰭基底長60.3; 臀鰭基底長50.3; 背鰭起部から胸鰭基底上端までの長さ34.1; 胸鰭基底長6.5; 胸鰭基底上端から臀鰭起部までの長さ28.1; 胸鰭長35.8; 腹鰭長8.9; 背鰭第5軟条長16.3; 臀鰭第5軟条長6.4; 尾柄長10.5; 尾柄高7.2; 尾鰭上葉長45.5; 尾鰭下葉長33.3; 頭長27.2。体各部測定値の頭長に対する割合(%) : 吻長26.2; 眼径23.5; 眼隔域幅26.2; 上顎長50.7。

体は前後方向に長い卵型で強く側扁し、体高は背鰭起部で最大。体背縁は吻端から眼の上方にかけて凸出し、そこから背鰭起部にかけて緩

¹⁾〒890 0065 鹿児島市郡元 1 21 24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

²⁾〒890 0065 鹿児島市郡元 1 21 30 鹿児島大学総合研究博物館

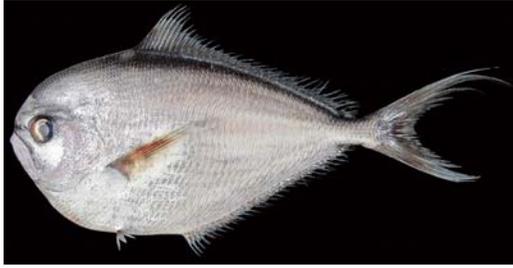


図1. マルバラシマガツオ *Brama orcini* KAUM-I 60360, 体長249.8mm, 長崎市橘湾牧島南方

やかに上昇する。体背縁は背鰭起部から背鰭基底後端にかけて緩やかに下降し、尾柄部背縁は体軸と平行。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部前方にかけて急激に下降し、そこから臀鰭起部にかけて体軸と平行となり、臀鰭起部から臀鰭基底後端にかけてはやや急激に上昇し、尾柄部腹縁は体軸と平行となる。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりもわずかに後方に位置し、胸鰭基底下端は胸鰭基底上端と背鰭起部よりも前方に位置する。胸鰭後端は尖り、背鰭第18軟条基底後端直下より僅かに後方および臀鰭第9軟条起部直上に達する。腹鰭起部は胸鰭第7軟条起部直下に位置し、腹鰭基底後端は胸鰭基底下端直下に位置する。ただ腹鰭の後端は肛門に達しない。左右の腹鰭は近接する。背鰭起部は腹鰭基底後端よりも僅かに後方に位置する。背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上に位置する。臀鰭起部は背鰭第10軟条起部直下に位置する。尾鰭は二叉型で、深く湾入する。尾鰭上葉後部はリボン状に伸長し、尾鰭上葉長は尾鰭下葉長の136.9%。眼は正円に近い楕円形で、背腹方向に長い。眼隔域は膨出する。鼻孔は2対で眼の前方に位置し、互いに近接する。前鼻孔は正円形で後鼻孔はスリット状。体は、固く剥がれにくい円鱗に被われ、胸鰭と腹鰭を除く各鰭も被鱗する。尾柄から尾鰭基底の鱗は後方に行くにしたがって徐々に小さくなる。胸鰭と腹鰭は腋鱗を有する。下顎と吻部は無鱗。背鰭前方被鱗域の先端は左右の瞳孔の中心を結んだ線よりも前方に達する。口は斜位で大きく、上顎後端は瞳孔前縁よりも後方に達する。主上顎骨後端は露出し、丸みを帯びる。下顎先端は上顎先端よりも突出する。

上顎には鋭い円錐歯が1列に並び、その内側に絨毛状歯による歯帯がある。下顎には小円錐歯が1列に並び、その内側にはそれらよりも大きい鋭い円錐歯が1列に並び、下顎先端には3本の鋭い牙状の固着歯がある。肛門は臀鰭起部前方に開孔する。前鰓蓋骨と鰓蓋の後縁はともに円滑。側線は不明瞭であるが完全で、鰓蓋後縁上方から尾柄にかけて体背縁に並走する。胸鰭基底下端から腹鰭起部までの長さは体長の13.8%、頭長の51.0%。

色彩 新鮮時の色彩 体背面は一様に黒みがかった暗紫色。体側および体腹面は一様に紫がかった銀白色。背鰭、腹鰭、臀鰭および尾鰭は暗い藍色。胸鰭は黄緑色の半透明で、上部は暗赤色。虹彩は淡い金色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。

固定後の色彩 体は一様に茶色がかった黄褐色となる。

分布 北緯30°から南緯30°にかけてのインド・太平洋 (Snyder 1904; 谷津・中村 1988; 谷津 1997; Last and Moteki 2001; 波戸岡・甲斐 2013, Bos and Gumanao 2013) およびアメリカ・カリフォルニア (Mead 1972) に広く分布する。国内では、相模湾 (波戸岡・甲斐 2013)、三重県南部 (Hibino et al. 2014)、小笠原諸島と八重山諸島 (望月 1984; 波戸岡・甲斐 2013)、鹿児島県薩摩半島西岸、大隅半島東岸内之浦湾、大隅諸島種子島、および奄美群島奄美大島 (畑ほか 2015) から報告がある。

備考 橘湾産の標本は、胸鰭基底下端から腹鰭起部までの長さが体長の13.8%、頭長の51.0%であること、縦列鱗数が51であること、背鰭軟条数が34、および臀鰭軟条数が29であることなどの特徴が Mead (1972) や谷津・中村 (1988)、Last and Moteki (2001)、波戸岡・甲斐 (2013)、Bos and Gumanao (2013) の報告した *Brama orcini* の標徴とよく一致した。本種は日本産の同属他種と比較して、胸鰭基底下端と腹鰭起部の間隔が体長の12%以上、頭長の42%以上であること、縦列鱗数が48-55であること、背鰭軟条数が32-36、および臀鰭軟条数が28-30であることなどから識別される (Mead 1972;

Moteki et al. 1995 ; 波戸岡・甲斐 2013). 日本
の東シナ海沿岸におけるマルバラシマガツオの
記録は鹿児島県薩摩半島西岸からのものに限ら
れており (波戸岡・甲斐 2013 ; 畑ほか 2015),
本報告は長崎県における本種の標本に基づく初
めての記録となる .

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり , 鹿児島大学
総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分
類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた .
標本の採集に際しては , 長崎市たちばな漁業協
同組合の関係者の皆様に多大なご協力を頂いた .
以上の方々に謹んで感謝の意を表する . 本研究
は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚
類の多様性調査プロジェクト」の一環として行
われた . 本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28
745), JSPS 研究奨励費 (PD : 26 477), JSPS
科研費 (19770067 , 23580259 , 24370041 , 2624
1027 , 26450265), JSPS 研究拠点形成事業 - ア
ジア・アフリカ学術基盤形成型 - 「東南アジア
沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 総合地
球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエ
リアケイパビリティーの向上プロジェクト」,
国立科学博物館「日本の生物多様性ホットス
ポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文
部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とそ
の保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿
児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロ
ジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生
態系保全研究の推進」の援助を受けた .

文 献

Bos, A. R. and Gumanao, G. S. 2013. Seven new re-
cords of fish (Telestei: Perciformes) from coral
reefs and pelagic habitats in southern Mindanao,
the Philippines. *Marine Biodiversity Records* (6):
1-6.
畑 晴陵・伊東正英・山田守彦・高山真由美・

本村浩之 2015 標本に基づく鹿児島県のシ
マガツオ科魚類相 . *Nature of Kagoshima*
(41): 73 93 .

波戸岡清峰・甲斐嘉晃 2013 . シマガツオ科 .
日本産魚類検索 全種の同定 , 第三版 . (中
坊徹次 編) 905 909 , 1998 1999 pp , 東海大
学出版会 , 秦野 .

Hibino, Y. Okada, M. Moteki, M. and Kimura, S.
2014. Redescription of the shortfin pomfret,
Brama pauciradiata, based on Japanese speci-
mens (Actinopterygii: Perciformes: Bramidae).
Species Diversity (19): 111-115.

Last, P. R. and Moteki, M. 2001. Bramidae. Pp.
2824-2835 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H.
eds. *FAO species identification guide for fishery
purposes. The living marine resources of the
western central Pacific, volume 5: Bony fishes
part 3 (Menidae to Pomacentridae)*. FAO.

Mead, G. W. 1972. Bramidae. *Dana Report* (81): 1-
166, pls. 1-9.

望月賢二 1984 . シマガツオ属の1種 *Brama
orcini* Cuvier . 日本産魚類大図鑑 . (益田 一・
尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫
編) P .155 , pl. 350 B , 東海大学出版会 , 東
京 .

Moteki, M. Fujita, K. and Last, P. R. 1995. *Brama
pauciradiata*, a new bramid fish from the seas off
tropical Australia and the Central Pacific Ocean.
Japanese Journal of Ichthyology, 41 (4): 421-427.

Snyder, J. O. 1904. A catalogue of the shore fishes
collected by the steamer "Albatross" about the
Hawaiian Islands in 1902. *Bulletin of the U. S.
Fish Commission* (22): 513-538, pls., 1-13.

谷津明彦 1997 . マルバラシマガツオ *Brama
orcini* . P 328 . 岡村 収・尼岡邦夫 (編) ,
山溪カラー名鑑 日本海水魚 . 山と溪谷社 .
谷津明彦・中村 泉 1988 新顔登場 外洋表
層性魚類(IV)シマガツオ類 . *JAMRAC* (33)
43 53 .